

令和8年9月2日（水）【秩父市長 職員向けメッセージ】

市内小中学校の夏休みも終わり、先日は学校の登校時に行われている「あいさつ運動」に私も参加させていただきました。

学校の皆さま、地域の皆さまと一緒に子どもたちにあいさつをすると、元気にあいさつを返してくれ、朝から元気をいただきました。

本日は、職場での「あいさつ」について、少しお話をさせていただきます。

私は、組織としての生産性を高めるには、職場内の人間関係を円滑にすることが大切なことと考えています。皆さんが互いを尊重し、協力し合う風土を築くことが、市民サービスの向上に繋がり、組織全体の成長に繋がるものと考えます。

その中でもあいさつは、相手を尊重し、円滑な対話を生み出す最も身近な行動です。

職場の文化として挨拶を通じて互いに円滑な環境を築いていくことが職場の働きやすさに繋がるものと考えます。

人は、心を持った生き物です。

だからこそ、仕事を進める上でも、単なる指示や情報のやり取りだけではなく、お互いを一人の人間として尊重し、声を掛け合い、気持ちを通わせることが重要でしょう。

とても単純で、当たり前のことです。

でも、その当たり前のことが、なかなかできないのも、また人間なのだと思います。

では、なぜ大切なあいさつができなくなってしまうのか。

私は、その大きな理由の一つが、忙しさの中で忘れてしまうということなのではないかと思っています。

私は以前から、「無関心」「無感動」「無責任」はつながっていると考えています。

関心がなくなると感動は起こらず、心が動くことがなければ責任は生まれない。この無責任がさらに無関心を深めていく、という連鎖です。

では、この負の連鎖をどうやって断ち切るのか。

あいさつは、そこにいる相手の存在に気づき、相手に関心を持つ入口です。

あいさつが、この負の連鎖を断ち切る鍵かもしれません。

私自身も、自分を省みて、あいさつを大切にしていきたいと思います。

毎日の心がけとして続けることが、習慣につながり、それが、積み重なって職場の文化になっていくのだと信じています。

市民の皆さまにも、職場の中でも、今まで以上に温かなあいさつが交わせる市役所にしたいと願っています。

あいさつを通してより良い職場環境を作ってまいりましょう。

今月もどうぞよろしくお願い致します。